

平成29年度 第3回公立大学法人公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日時 平成29年11月1日(水) 10:00～11:50
- 場所 公立鳥取環境大学 小会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 西山信一委員、今井正和委員、若原道昭委員、大田斉之委員、林田英樹委員、渡邊良人委員、吉田圭子委員 [7名/9名]
山崎安造監事 [1名/2名]
- 欠席者 藤縄匡伸委員、山田憲典委員
湯原裕子監事

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 審議事項

(1) 平成29年度補正予算について

事務局から、紀要のWeb掲載及び冊子発行に係る平成29年度補正予算案件について説明があり、原案のとおり承認された。

(2) 平成30年度予算編成方針について

事務局から、平成30年度予算編成方針について説明があり、原案のとおり承認された。

<主な意見等>

- ・ 目的積立金の使用には制約があるのか(県と市の承認がいるのか)。
→ 6年間の計画期間内であれば、予算措置等の正規の手続きをとれば使用できる。
- ・ 障害者差別解消法に基づく対応要領の制定等出来ていないとのことだが、これについて文科省から指導や問い合わせ等があったのか。
→ 特に文科省から問い合わせはない。なお、中四国の公立では、半分程度が対応している状況である。本学はまだで出来ていないため、課題として取り組むこととし、体制を整えたいと思っている。
- ・ 生徒数が少なくなるなど周辺環境が厳しくなる中、前文に「第2期は大学の質を高め、未来に向けた可能性を切り開く発展的なステージを目指す」とあるが、これを中期目標、中期計画に重点的に盛り込んで進めていくべきだと思う。江崎学長候補者も所信書でも同様のことを言っておられる。江崎学長候補者の所信書で強調されていることは、上手く反映させてほしい。
→ 中期目標、中期計画、新学長の意向等流動的なところがあるが、うまく盛り込めるようにしたいと思う。
- ・ 他大学との差別化を図るため、「環境」を大学名に冠した大学ならではの特徴づくりに向けて具体的な取り組みができればいいと思う。県内での評判も上がり、県内進学率にもつながるし、質の向上にも繋がる。
- ・ 無理に急いで地元の進学率を上げなくても、全国から優秀な学生が集まる大学として県内

で周知されれば、確実に関心度は高まるので、予算を使ってでも周知をしていただきたい。

- ・環境大学の特徴（何が学べるか）を、もう少し学内で議論をし、共通認識を持った上で、対外的にどうアピールするかなどが今後の課題ではないかと思う。

（3）第2期中期目標に係る意見照会について

副理事長から、第2期中期目標に係る意見照会について、法律で本学の意見を聞くことになっているが正式な意見照会がないため、現在の案に対して本経営審議会の意見を伺った。設置者から意見照会があった際は、本経営審議会での意見を反映させて設置者に回答することが承認された。

<主な意見等>

- ・目標は、ここまで手取足取り、中学生に指示するようにやらなければならないのか。一般的に公立大学ではこんな状況なのか。こういう方向で頑張ってもらいたいというのはあって当然であるが、事細かに数値目標をあげるのは、数合わせをしようということになる等の弊害がある。

→ 全国で、ここまで細かい中期目標はない。法律では、中期目標は設置者が大学の方向性を示めしなさいということになっている。その方向性に対して、中期計画で具体的な数値を掲げるのが一般的である。本学の中期目標は、他の大学と比べるとページ数は2倍ぐらいになっていて、細かい。

また、全国で数値目標を出しているのは希である。第1期の時に経営が苦しかったということで数値目標をいろいろ出されたものを、経営が安定した第2期にも、設置者が残すと判断したものである。

- ・数値目標は大学側で立てるべきである。
- ・県内入学者率の数値目標は、大学運営に大変な悪影響を及ぼす。せっかく全国の優秀な生徒の目標になって、優秀な生徒が来るようになっている状況を、また元に戻すのか。私学の終わりの頃に問題になった低い入試難易度をようやくここまで持ち直したのに、こんな数字で縛るのは、自殺行為になる。県内入学者率を増やすように頑張らなさいというのはあって然るべきであるが、具体的に数字を挙げることの弊害は大きい。県内入学者数について数値目標をあげられるのは非常に問題だと思う。
- ・県内定着率も、大学が学生に「県内に就職してください」と勧めるということが求められているのだと思うが、大学には限界がある。県の企業に頑張ってもらわないと、学生は見比べていい方に行く。職業選択の自由を阻害しかねないことを先生方がするのか。キャリアカウンセラーが情報を提供する、インターンシップをするなどの努力をせよというのは、あって然るべきだと思うし、頑張ってもらいたい。県内定着率の数値目標を出して大学を縛るということは、非常に弊害があることだ。
- ・退学率は低い方がいいということに疑問を感じる。大学の方針がしっかりしていれば良く、一般の方は本当に、退学者が多い、少ないで評価するのかと思う。むしろ、あの大学を出たということが評価される方がいいと思う。

3 報告事項

(1) 平成28年度公立大学法人公立鳥取環境大学業務実績評価書について

事務局から、平成28年度公立大学法人公立鳥取環境大学業務実績評価書について報告があった。

<主な意見等>

- ・歩道の街灯が十分でないとあるが、暗いということか。
→ そのとおりである。県道であるので、街灯設置を県に要望したいと思う。

(2) 公立大学法人公立鳥取環境大学学長代行者に関する規程の制定について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学学長代行者に関する規程の制定について報告があった。

(3) 公立大学法人公立鳥取環境大学育児休業等に関する規程の一部改正について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学育児休業等に関する規程の一部改正について報告があった。

(4) 近況報告

事務局から、入試、就職活動など大学の近況について報告があった。

(5) 公立大学法人公立鳥取環境大学次期理事長（学長）候補者の選考について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学次期理事長（学長）候補者の選考について報告があった。

5 閉 会